

## 令和6年度 第1回千代田区図書館評議会 議事要旨

### 【日時等】

〈実施日〉 令和6年7月31日(水) 13:30~15:53

〈場 所〉 千代田区役所 6階 特別会議室

〈出席者〉 ◦ 評議会委員(7名)

野口 武悟(会長) 鵜田 拓哉(副会長)

加藤 恵美 木原 一雄

今 菜都美 武井 ゆかり

北島 敦子

◦ 区立図書館指定管理者(3名) ※次第3から出席

ゼネラルマネージャー 後藤 慎治

千代田図書館長 小出 元一

日比谷図書館文化館副館長 藤沢 雄一

◦ 事務局

千代田区地域振興部文化振興課長事務取扱

地域振興部参事 菊池 洋光 他5名

### 【資料】

ー当日配付資料ー

1. 令和6年度第1回千代田区図書館評議会 議事次第
2. 第9期千代田区図書館評議会 委員名簿
3. 千代田区図書館評議会設置要綱
4. 令和5年度千代田区立図書館年報
5. 令和5年度千代田区立図書館活動報告

ー事前配付資料ー

6. 資料1 千代田区図書館評議会 令和5年度図書館運営に対する評価シート
7. 資料2 令和5年度図書館運営に対する評価方法について

### 【次第】

- 1 開会  
文化振興課長挨拶
- 2 施設見学会  
千代田図書館コンシェルジュの案内により館内見学
- 3 議題  
令和5年度千代田区立図書館運営の評価について
- 4 連絡事項  
次回日程

## 【議事経過】

### 1 開会

- ・文化振興課長より、挨拶および交代のあった千代田区図書館評議会委員の委嘱状を交付した。
- ・交代のあった委員、事務局職員の自己紹介を行った。

### 2 施設見学会

千代田図書館コンシェルジュの案内により館内を見学した（9階～10階）。

### 3 議題

- ・ここから、区立図書館指定管理者のゼネラルマネージャー、千代田図書館長、日比谷図書文化館副館長が出席、自己紹介を行った。
- ・本日の資料確認および改定した評価方法、評価シートについて説明を行った。

#### <令和5年度千代田区立図書館運営の評価について>

会 長： 令和5年度の千代田区立図書館運営の評価について、実績、図書館（指定管理者）の自己評価が記載された評価シートを配付している。今年度は評価項目ごとに、図書館から実績と実施状況、自己評価について説明を受け、その都度質問を受ける方式で進行していく。

まず評価項目「千代田ゲートウェイ」について、図書館から説明をお願いします。

ゼネラルマネージャー： 「千代田ゲートウェイ」は、区内のさまざまな情報を千代田区立図書館から発信するというコンセプトである。全体の評価として、令和5年度は4年度と比較してどの項目も比較的堅調であった。目立つ数値としては「取材対応件数」の達成率が千代田は65%であったが、これは4年度に閉館した岩波ホールの企画展示の取材対応が非常に多かったため、比較対象となる4年度の実績が伸びたことによるもので、「ニュースリリースの発信回数」は堅調に維持している。したがって、それほど特別な危機感を抱いていない。また「ちよびたブログアクセス回数」は計測に費用がかかっていたが、年間を通じてホームページのアクセス回数とある程度連動する傾向が分かってきたため、費用削減の観点から計測を終了した。全体を通して、近年メディアがますます細分化しているため、非常にターゲティングが難しいと感じている。世間一般の方々とコミュニケーションを図るうえで、その事例にあった手法、ツールを選択し取り入れていく。全体評価はbとした。

千代田図書館長： 昨年度、評議会委員の皆様からさまざまなご意見をいただいたことを受け、広報に関して、図書館側の体制を変え、専門のプロジェクトを立ち上げて現在進行中である。

会 長： ありがとうございます。「千代田ゲートウェイ」に関してご意見・ご質問をお願いしたい。

委 員： 「企画展示資料貸出数」が少し伸び悩んでいる。マニアックなものも大事だと思うが、朝ドラで明治大学出身の方がモデルになり、明治大学では大々的に企画展を行っているが、そういったものと連動すると、もう少し資料の貸出数も上がるのではないかな。

千代田図書館長： ぜひ実施したいと思うが、5年度はメキシコ大使館や国立劇場、区と国との関

係の中でどうしても実施しなければならない部分もあった。

委員： 先ほど千代田図書館を見学した時に感じたことだが、古書店との連携の人气、評判はどうか。

千代田図書館長： 以前に「としょかんのこしょてん」と題して連携展示を開催していた。一定の人气はあるが、全古書店が2回転して現在縮小中である。図書館としても地域産業の古書店を応援したい。

委員： 非常によい取り組みで、来館すると大変興味を持つが、来ないと分からないところがあった。歌舞伎に関しても興味がある世代は必ずいる。

千代田図書館長： 先ほど話した専門プロジェクトの中で、千代田区立図書館公式チャンネル（YouTube）でも、コンテンツとして古書店を取り上げている。

副会長： 「指定管理者による自己評価」の3番で、広報誌の発行に関して「令和6年度にリニューアルを予定」とある。今まで独自に発行していたものをリニューアルする理由は何か。

ゼネラルマネージャー： 千代田と日比谷でそれぞれ独自にニュースレターを発行していた。発行回数・配布場所も違っていた。同じコンソーシアムで5館連携になったことで、広報のリソースを一本化して、それぞれのよい面を伸ばして、悪い面は合理化を図るということである。

会長： 今公開されている YouTube の古書店のコンテンツが大変よい。しかし、再生回数がそれほどでもない。もっと多くの人に見てほしいが、戦略は何かあるか。

ゼネラルマネージャー： これまでの YouTube の動画は、日比谷カレッジのスケジュールや Web 図書館の使い方などノウハウ的なものの情報発信が多かったが、今回の「古書と神保町」は企画もので、見て楽しいものというコンテンツにして初めて発信した。以前の動画と比べて再生回数は約 10 倍になっている。しかし、来館者に比べるとまだまだ非常に少ないため、アピール方法を検討している。例えば、ウェブサイトのトップページに、新しいコンテンツができた時にすぐにバナーをつけて YouTube へ誘導したり、YouTube をアップした日に SNS も同時に配信したりすることも必要と考える。また、来館者の目につくところにポスターや、QR コードを貼ったポップを座席に置いて誘導するような仕掛けが必要と考える。

会長： ぜひ、その取り組みを進めていただきたい。

委員： 「区内関係施設との連携」「地域産業との連携」について詳しく聞きたい。地域性の面で図書館の意義を発信していくことは重要である。千代田区が注目されやすいコンテンツがあった時にどう連携していくのか、区民の目も図書館に向いていくため、そういった視点が重要である。5年度の増加した実績は、何か専門プロジェクトの中で企画したものか。

ゼネラルマネージャー： 区内関係施設との連携企画では、東京国立近代美術館 70 年、ガウディとサグラダ・ファミリア「ミュージアムへ行こう」、メキシコ大使館、相田みつを美術館、共立女子大学との連携を行った。美術館・博物館・学校など広く連携を取るように心がけて実行している。1つに偏ってしまうと来館する層も偏ってしまうので、バランスよく企画していろいろな方の読書振興につなげていきたい。

会長： 続いて、評価項目「ビジネスを発想するセカンドオフィス」について、図書館から説明をお願いします。

千代田図書館長： 「ビジネス関連資料の満足度」は、目標に対して千代田は若干プラス、日比谷は若干マイナスであるが、大きな差はないと考える。「日比谷カレッジ企画数」は、企画数を1つの指標にしているのかどうか、難しいところである。内容をどう精査していくのか若干問題があると考え。「データベース利用件数」の利用されたデータベースは、ほとんど新聞のデータである。昔は新聞を図書館で読むのは当たり前の話であったが、今は何か事件があったりした時に興味を持ってこれを見直すということで使われることが多い。「キャレル席・電源付閲覧席の利用件数」「インターネット席利用件数」は、コロナ禍以降、個人ごとに仕切りをして座るニーズが非常に上がっている。自分のパソコンを持ち込み電源席で使う人が増えたことから、このような実績になっている。「特別研究席の利用件数」は、停滞気味である。コワーキングスペースなどの出現により、特別研究席自体の社会的なニーズはかなり落ちている。特別研究席は抜本的な見直しを来季に向けて検討している。「貸室稼働率」は、日比谷は伸びているが、千代田は若干下がっている。千代田は大きな部屋がないため、貸室ニーズがどこまであるのか疑問である。区役所庁舎全体で冷房や暖房が全部一括になっているため、居心地のよさ悪さは若干あると思われる。全体的にビジネスに関係するものは、社会環境に大きな影響を受けながらの数値であり、単に数値だけでよい悪いというのは言いづらい部分もあると感じながら運営している。全体評価は、bとした。

会 長： ありがとうございます。「ビジネスを発想するセカンドオフィス」に関してご意見・ご質問をお願いしたい。

委 員： 今、パーソナルスペースが求められつつある中で、公共図書館での閲覧スペースは、仕切りを高くすると管理しづらくなる。半面、低いと隣が気になってしまうのが現実だと思う。開館から15年経っている。コンセントも含めてパーソナルスペースがもう少し確保できる形にすると、利用も上がると感じる。そのあたりの見直しはいかがか。

千代田図書館長： 今から17年前に、オフィスビルに図書館は合わないという話があったが、実際に蓋を開けてみると、これが先鞭をつけて、今ではさまざまな図書館がビルの中にできつつあり、ビルの中でも十分図書館として成り立つことは証明した。いずれリニューアルの機会があれば、おっしゃるとおりの見直しを検討したい。

委 員： 今日図書館を見学して気づいたが、図書館の中でまったく音がしない。最近ではオフィスでも鳥のさえずりや自然の音をうまく取り入れているところもある。何か自然を感じられる演出があると、もっとよい空間ができるのではないか。

千代田図書館長： 電子時計の音がうるさいという方もいる。図書館の在り方や、日本の図書館が変わってくるとそのような話もあると思われる。

会 長： 環境音については、よいという意見、一方で嫌という意見もある。どこで折り合いをつけるのか非常に悩ましい。しかし今、図書館が向かっている方向性としては、シーンと静かにするだけではなくて、お互い学び合うプロセスの中では声を出して、コミュニケーションを取る必要もあるので、ある程度許容していこうという方向には向かっている。そのため、静かに読書したい人向けにはサイレント読書室を別途用意する方向に流れは向かいつつある。

委 員： 大学の取り組みを紹介する。大学では、スーパーサイレントエリアという、ス

マホも不可の小部屋を作った。また普通のサイレントエリアで発話は不可のエリアと、あとは発話可のエリア。もう1つはグループ学習ができるエリアを作り、発話もパソコンも可、蓋つきの飲み物も可としている。さまざまなニーズに応じたエリアを区分、明示して運用している。

最近大学では、勉強するにはパソコンが必要であり、一方でキー音がうるさいという人もいるため、エリアを明確に区分している。千代田の中高生が大きい声でなくとも、課題を相談しながら行うのは難しそうな雰囲気があると感じた。

千代田図書館長： 環境が許せば、エリアの検討をしたいとは思っている。

委員： 大学の学生は多少雑音があったり、他人がいたりするほうが落ち着くように感じる。そのような流れがあって、大学図書館の中にもエリアを作った。コロナ禍が明けてもオンライン授業は継続しているため、館内にもオンライン授業受講可のエリアを作ったがあまり人気ではなくて、意外と人通りがある所に置かれた机のほうに学生は集まっていく。千代田の中にも静かな所と、多少のざわざわ感のある所、それぞれ好むエリアも設けられたらよいと感じる。

委員： 「データベース利用件数」のデータベースについて、内容を示した一覧表はあるか。見学した時に見当たらなかった。

千代田図書館長： 一覧表はカウンターで案内している。ホームページにも載っている。

委員： データベースとはどういうものか。分かればもう少し利用も増える。知る機会を設けたらよいのではないか。「ホームページに載っています」と言ってもホームページも能動的に見に行かないと分からないため、受動で分かるような場所に置くのも1つの方法かなと思う。

千代田図書館長： 館内やホームページの案内をもう少し丁寧に行う。

会長： 続いて、評価項目「区民の書齋」について、図書館から説明をお願いします。

千代田図書館長： 非常に図書館らしい項目である。図書館として一番気になる「利用者満足度」であるが、四番町を除いて4館は95%~98%と非常に高い数値になっている。「区民登録率」も目標どおり、想定範囲内である。「中高生席の利用満足度」については、「もっと席を増やしてほしい」「キャレル席を使えないか」などの意見が増えてきている。中高生席は5~6年前に急遽、研修室を改装して専用室を設けたほか、窓側にハイチェアを設置した。苦肉の策でもう施設的に限界に近い。「レファレンス・読書相談件数」は、妥当な数値というのが正直なところである。回数が多ければ優秀だという訳でもないと思っている。「パスファインダー作成」は、千代田は毎年2件ずつ、日比谷は改定を進めているので多い数値になっている。「郵送貸出件数」は、これだけ要望があったということである。「点字資料等の蔵書数・貸出数」も、これだけの実績があったということである。「Web図書館貸出件数」「ナクソスの利用件数」は目標に届いていない。要するに、コロナ禍の時に一番増えて、それから少しずつ減っているが、急激には落ちていない。それだけ認知度が少し上がっていると図書館では捉えている。全体として「区民の書齋」は、安定した運営ができています。

会長： ありがとうございます。「区民の書齋」に関してご意見・ご質問をお願いしたい。

委員： 利用者満足度がかなり高い。特に四番町が仮施設で90%近くもある。したが

って、もう少しきちんと評価をしたほうがよいのではないかと。中高生席はみんなもっと居場所を求めているのだと思う。残念だなと思っているのがコロナ禍で大幅に増えていたWeb図書館の貸出件数やナクソスの利用件数、本当に使い続けてもらうにはどうしたらよいのか。考えていかなければいけないポイントである。

会 長： 点字資料や大活字本・デジ資料の貸出数は、先ほどの説明であったように数値だけでどうこうという話ではないにしても、もう少し使ってほしい部分もある。例えば読書バリアフリーに関してのサービスの広報やPRはどのようにしているのか。

千代田図書館長： 強くこれを押し出している感じではない。改めてもう少し何ができるか考えてみたい。

会 長： ぜひ、読書バリアフリー法も施行されて今年で5年目である。改めてもう少し何かアピールできることがあるとあれば取り組んでいただきたい。

今日見学して、初めて知ったが、対面朗読室の利用実態を分かれば教えていただきたい。

千代田図書館長： あまり利用がないのが実態である。社会福祉協議会に依頼して対面朗読者を派遣してもらおうが、要望も少なくなっているため、なかなか確保できない。図書館だけではなく、総合的にサービスのPRをしないと利用は増えない。

会 長： 対面朗読は図書館だけのPRというよりも、福祉部局との連携も必要になってくる。

委 員： 中高生もキャレル席を使いたいという理由の1つかもしれないが、区立図書館は誰でも入れるため、不安に思うこともあると想像する。セキュリティーの面はどうなっているのか。

千代田図書館長： 警備員を配置し、定期的に巡回している。また、何かあればスタッフが声かけをしている。

会 長： 続いて、評価項目「クリエイトする書庫」について、図書館から説明をお願いする。

千代田図書館長： 「クリエイトする書庫」は、他の図書館にはあまりない千代田区立図書館ならではの項目である。日比谷の「特別研究室モーニングセミナー」の開催回数は、5年度ゼロであるが、モーニングセミナーは今までに500回近く開催していて、参加者の高齢化と内容の見直しにより、一旦終了とした。また、特別研究室自体を刷新する改革を考えている。「特別展満足度」「特別展示関連講座満足度」は高い数値であるが、興味のある人が来ているので満足度が高いのは当たり前ではないか、アンケートの違う取り方はないかと個人的には考えている。「蔵書回転率」は、実態としては他の図書館に比べるとはるかに高い数値である。この回転率を数値として取っている図書館はほとんどない。図書館としては死蔵している蔵書がどれだけ動いているかというのは非常に大きな問題で、回転率の上下する数値をきちんと取っておく必要がある。全体としては、千代田区立図書館としての特色が出る項目のため、あえてaとした。

会 長： ありがとうございます。「クリエイトする書庫」に関してご意見・ご質問をお願いしたい。

会 長： モーニングセミナーは一旦終了ということであれば、今回の評価シートはこれ

でよいと思うが、来年度はこの項目は外すことも考えられる。それともまた来年度復活予定はあるのか。

千代田図書館長： 今年度は開催しないが、何かセミナーを開催したいと検討している。この内田嘉吉文庫を知らしめていくにはセミナーなどの開催が必要である。ゼロから人を集めるのは大変であるが、それだけの価値はある。

会 長： 続いて、評価項目「ファミリーフィールド」について、図書館から説明をお願いします。

千代田図書館長： 「ファミリーフィールド」では、「児童資料満足度」が94.8%で90%を超えた。10階にブックトラックを3台配置して強化した効果が出ている。「区内児童施設へのリサイクル本の提供冊数」のゼロは、5年度はリサイクル本を提供するだけの資料がなく、リサイクル本提供会を実施しなかったためである。「おはなし会」は、四番町が仮施設でありながら頑張っただけで開催し、利用者満足度は、97.5%を得ている。「子ども読書調査における不読率」は、図書館だけでどうにかなるとかという問題でもないのが難しいが、区の子ども読書活動推進計画の推進があるため、図書館でもできることは協力していく。支援先での複数の事業は小中学校、幼稚園、保育園、児童館に全て行っているが、ブックトーク、レファレンス、ブックリストの作成、イベント等も目標以上に実施している。新四番町図書館になると新たな動きがあり、蔵書数が増えるので、千代田区立図書館としての人員を整えて新しい方向性を出していけるとよいと考えている。

会 長： ありがとうございます。「ファミリーフィールド」に関してご意見・ご質問をお願いしたい。

委 員： 図書館内を見学した時に、新刊などの照会や古書店との提携の案内があったが、図書館と書店が連携している活動は非常によいと思うので、よい取り組みはもっとPRしたほうがよい。

千代田図書館長： 6年度から開催している神保町・古書店街を歩いてみる、「はじめての神保町街歩き」は、神保町全体の活性化や古書店の活性化にもつながるとの思いから、新しい動きとして図書館と書店の連携を試みている。

委 員： 今年の夏休みの宿題で、子どもたちがそれぞれ区の中でのテーマを決めて、資料を探し集めて回るといったものがある。そういう時に図書館を使えるといいねと家で話していた。そういった特定の学年で特定のことを取り組むことが分かれば、何か連携ができるのではと思った。

千代田図書館長： 6年度の夏休みの企画では、地図を取り上げてみた。昭文社と連携して講師をお願いした。子どもたちの興味の湧くことを行ったので大変好評であった。区長も来られて「面白い」との感想を述べられた。

委 員： そのような企画を積極的に開催していることが指定管理者の自己評価欄に記載されていれば、「ファミリーフィールド」をサポートしていることが分かり、評価も高くなる。

委 員： 「おはなし会参加者数」に関して、神田の目標達成率が計画より低いが、千代田小と隣接しているけれども、小学校との連携は影響しないのか。

千代田図書館長： 図書館と小学校とは、読書振興という活動の中で連携している。その際は、司書が学校に行き、さまざまな情報も流しているが、おはなし会は基本、乳幼児向

けである。

- 会 長： 最後に、評価項目「管理運営等」について、図書館から説明をお願いします。
- 千代田図書館長： 「入館者数」は四番町を除いて全て目標をクリアしている。千代田はコロナ以降の回復のスピードが少し伸びてきた。「新規登録者数」も徐々に伸びている。「職員の研修」はコンソーシアムを構成している6つの会社の中での研修、それから館ごとの研修、全体の研修、公的な機関が行っている図書館の研修に参加している。その結果、「職員対応満足度」で、どの館も高い数値を取っている。「合理的配慮件数」は目標達成率80%であるが、これは件数で、対応で不備があったものではありません。「レストラン、カフェ&ショップ来客数」も少し伸びてきた。今日比谷にプロントという店舗に入っているが、さまざまな資材等が高騰する中で、運営は厳しいであろうと感じる。「区内大学からの実習生受入人数」は毎年同じであるが、最大の枠ということである。年々希望者が多くなっている。大学生を受け入れるスタッフもかなりの労力がかかるので、この辺りが限界かと思っている。四番町でも「こども一日図書館員」という企画を実施している。全体的な数値である指標別評価平均が2.9のためaをつけた。
- 会 長： ありがとうございます。「管理運営等」に関してご意見・ご質問をお願いしたい。
- 委 員： 今の実習生受入人数も大変だと思うが、地域に根差した図書館ということで、これも先鞭を切って、いっぱい受け入れて、千代田区立図書館から巣立っていくという形を取るのも1つのアイデアではと思う。
- 千代田図書館長： スタッフを増やせば、できないことはないが、経費がかかる。
- 委 員： 評価項目全体の自己評価欄に「経年劣化を前提に設備や備品等の環境整備にも留意し」とあるように、施設面で古さや劣化を感じる部分があるので、ここに力を入れてもらうとよりよい環境になるのではないかと。
- 千代田図書館長： 特に日比谷がリニューアル後12年経って、設備関係に厳しい状況が続いている。日比谷公園全体の再整備も都が進めている。区としての考えもあるだろうが、その間、図書館として利用者に迷惑をかけないように頑張っていきたい。
- 委 員： 館内の環境音の話があったが、それと同じでちょっといい香りがする図書館というような環境面で何かアイデアがあるとよいのではないかと。
- 会 長： 評議会委員の評価については、後ほど事務局より記入用のシートをメールで送付する。事前配付した「評価方法について」を参照しながら自由記述の箇所を記入し、9月6日（金）までに事務局へメールで提出をお願いしたい。

#### 4 連絡事項

- 文化振興課長： 次回、令和6年度第2回の図書館評議会は、11月上旬の開催を予定している。詳細は、追って事務局から連絡する。
- 以上で令和6年度第1回千代田区図書館評議会を閉会とする。